

# 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会 報告

平成28年7月1日(金) 13:00～16:00  
国立がん研究センター国際研究交流会館 3階

参考：H28年5月19日 情報提供・相談支援部会報告 [http://ganjoho.jp/med\\_pro/liaison\\_council/bukai/shiryo7.html](http://ganjoho.jp/med_pro/liaison_council/bukai/shiryo7.html)

## がん相談支援センターの活動におけるPDCAサイクル、活動の見える化に関するこれまでの経緯

- **第1～3回部会まで**（H24/11/27～H26/6/12）
  - がん診療連携拠点病院の整備に関する指針（平成26年1月10日）や、がん診療連携拠点病院機能強化事業におけるがん相談支援事業の相談件数による評価（現行7,800件以上）について議論があったが、コンセンサスを得た評価指標は定まらず継続検討課題となっていた。より本質的な評価の提案に向けて、相談対応業務（対象とする範囲や件数の数え方等）や相談対応以外の幅広い活動内容の評価方法について検討を行うことが課題とされていた。
- **第4回部会**（H26/12/1）
  - まずは、がん相談支援センターの活動の“見える化”から検討をはじめ
  - がん相談支援センターの活動のPDCAサイクル確保（活動の見える化）等を検討する部会委員によるWGの発足（H26年12月）
- **第5回部会**（H27/6/10）
  - **WGでの検討結果を報告**
  - **各都道府県拠点病院でできるところから、また、一部研究班の協力を得て、継続的に取り得る手法等について検討をはじめ**
- **第6回部会**（H27/12/8）
- **第7回部会**（H28/5/19 今年度1回目）

# 今後の具体的な進め方について（提案）

## ■ 活動の見える化と相談件数のカウントについて

- 1) 「利用者調査」 → 研究班の協力を得て検討を開始する
- 2) 「相談件数」 → 研究班の協力を得て検討を開始する
- 3) 「相談件数以外の項目」 → 現況報告で
- 4) 「実施状況」 → 各県で決めた活動内容を測定、見える化

### ■ 各都道府県での検討：県内で進める活動・取り組みを議論し、決める

- 検討や実施が可能な県でスタートする
- 各県の検討・実施状況について、部会事務局よりアンケート（2016年2～3月頃）  
↓ 2016年度 第1回部会において
- 各県の検討・実施状況の報告と共有
  - ①各県の取り組み状況について、「アンケート結果」を共有
  - ②「具体的な検討を開始した県からの報告」による共有
    - 互いの県の取組みを参考にするなど

## 研究班によるパイロット調査 2015年11月～

平成27年度 厚生労働科学研究 がん対策推進総合研究事業（がん政策～指定）

<研究課題名>

がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究

<代表研究者>

国立がん研究センター がん対策情報センター 若尾 文彦

### ●参加施設 8都道県・16施設

北海道	北海道がんセンター／旭川医科大学病院
東京	東京都立駒込病院／がん研究会 有明病院
神奈川	神奈川県立がんセンター／藤沢市民病院
長野	信州大学医学部附属病院／長野市民病院
岡山	岡山大学病院／岡山赤十字病院
香川	香川大学医学部附属病院／高松赤十字病院
福岡	九州がんセンター／九州大学病院
長崎	長崎大学病院／長崎医療センター

# 1) 「利用者調査」 概要

**調査項目**：追加項目等について、部会委員から意見を募り決定

**調査票の配布**：調査期間中のすべての面談による相談者に配布（100名/施設）

- 期間：2016年1月18日～4月15日 平均44日間、最小18～最大64日間
- 配布総数：1090名（平均68名、最小19名、最大100名/施設）
- 配布率\*：約38% \*件数カウント調査連続稼働日20日間の結果より

**調査票の回収**：がん対策情報センター宛に郵送により返送

- 回収総数 683名分 + α（2016年5月13日までの仮集計）

**結果のフィードバック**：都道府県ごと、ならびに施設ごとに結果をフィードバック

# 2) 「相談件数カウント調査」 概要

**入力項目**：追加項目等について、部会委員から意見を募り決定

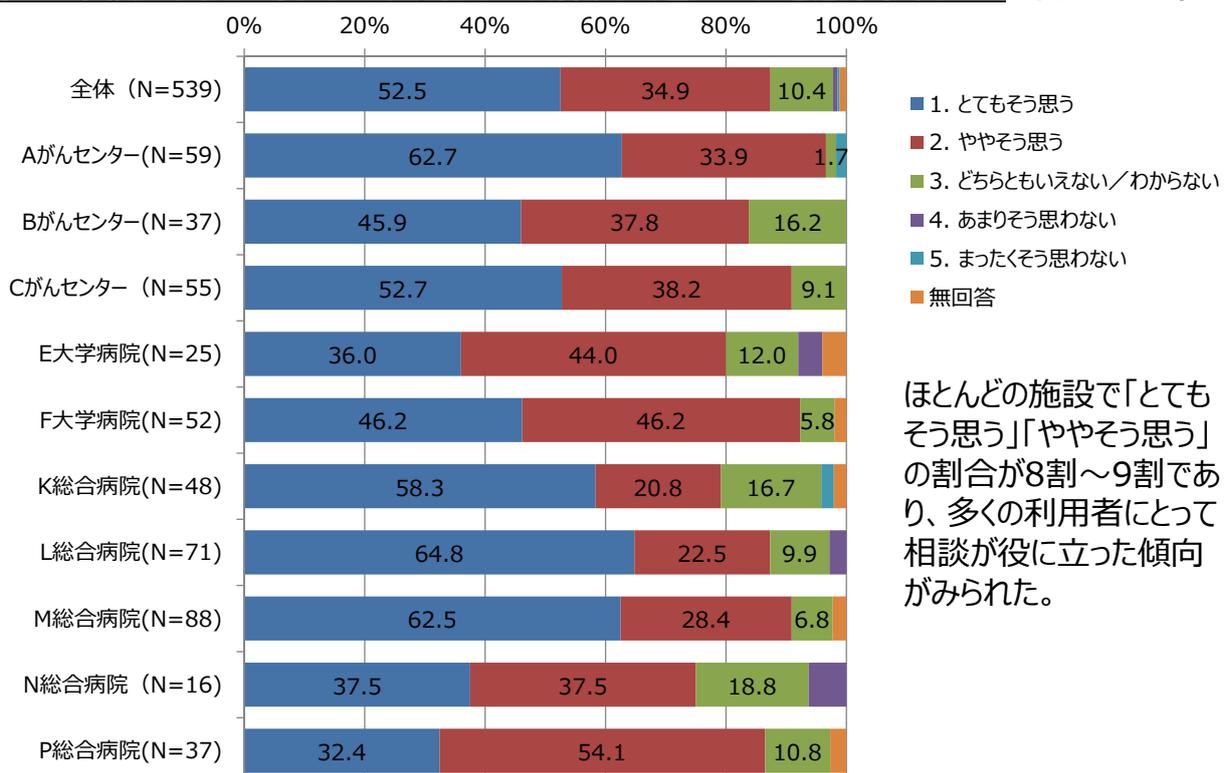
**入力期間**：2016年1月18日～3月23日 連続稼働日20日間

※利用者調査と同日に開始

**相談件数**：総数 3077件（施設平均197件、最小21件、最大672件）  
施設1日平均 12.8件

## 「利用者調査」パイロット調査結果（1）（中間集計）

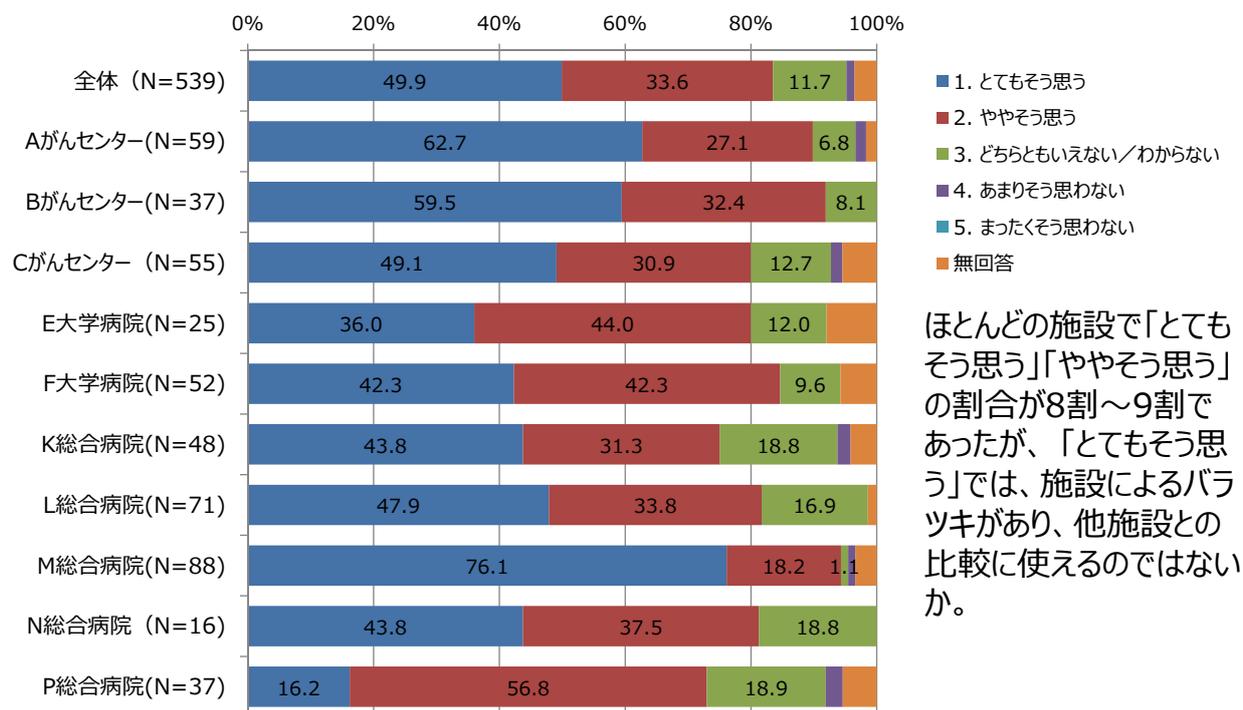
問8. あなたの相談したかった問題は、解決へ近づいたと感じますか？（○は1つ）



ほとんどの施設で「とてもそう思う」「ややそう思う」の割合が8割～9割であり、多くの利用者にとって相談が役に立った傾向がみられた。

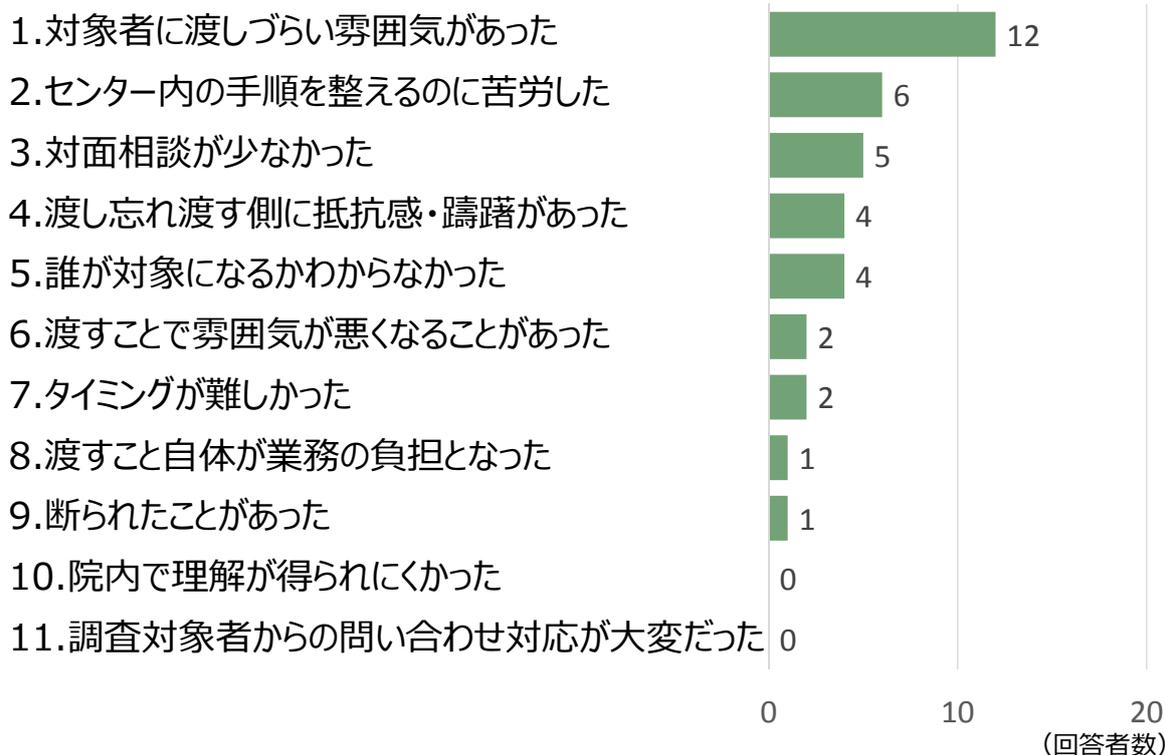
# 「利用者調査」パイロット調査結果 (2) (中間集計)

問10. がん相談支援センターを利用したことで、安心して治療を受けたり、療養生を送ったりできるようになりましたか？ (○は1つ)



## 「利用者調査」 実施アンケート 結果 (1)

利用者調査の実施において苦労したことは？

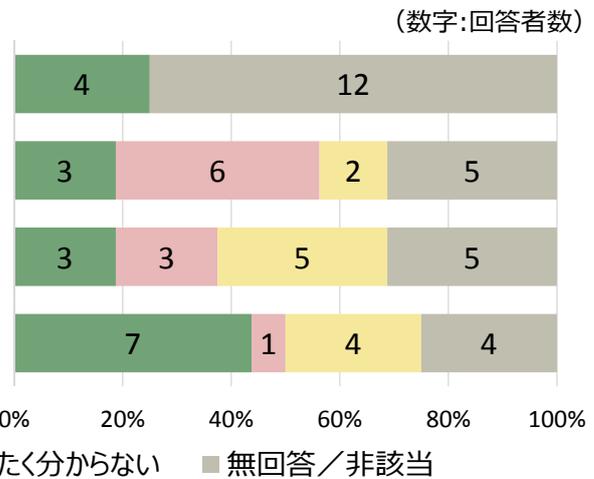


# 「利用者調査」 実施アンケート 結果 (3)

各病院の事業として実施することになった場合、

次の方法での実施が可能か？

- a. 国立がん研究センターに郵送で、実施施設が各4万円程度を負担  
(国立がん研究センターのスタッフによる支援を除く)
- b. 実施施設内で回収し、3万5千円程度を負担
- c. 実施施設ごとに実務(印刷・入力・集計など)を行い、経費をかけない
- d. その他

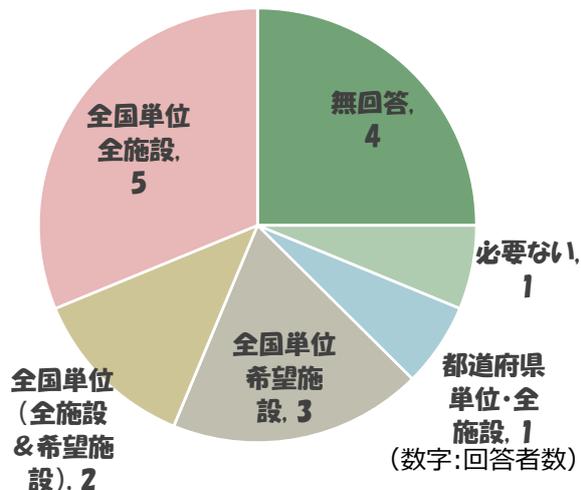


その他の方法

- 本研究の方法がよい。調査実施施設ではなく、国立がん研究センターに郵送する方法がよかった。利用者は、利用しているがん相談支援センターではなく中立的な機関に送付することでより参加しやすかったり、意見を記載しやすかったと推測する。
- 指定要件にもり込まれれば、病院負担で実施可能だと思う
- 県が把握する。拠点病院の予算から負担する。
- その他方法も見当たらないが、上記でいうと、aが現実的かもしれない。

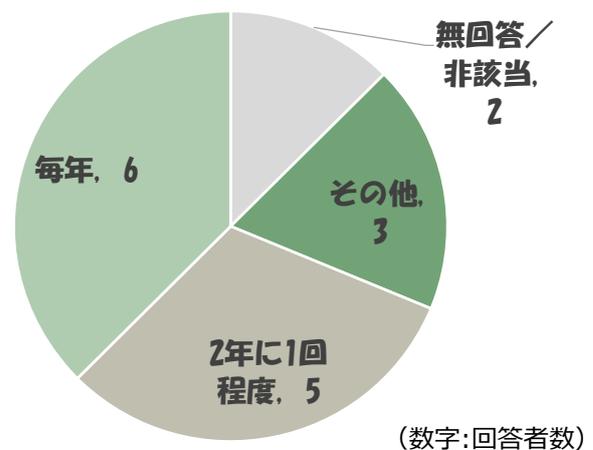
# 「利用者調査」 実施アンケート 結果 (4)

多施設で展開していくべきか？



必要ない理由：  
相談記入シートと同時に行うのは煩雑で現実的でない

多施設で展開する場合の調査の頻度は？



その他：  
 • 予算がつけば業務に組み込むことが望ましい  
 • 今回の結果と業務量との兼ね合いによる  
 • 3～5年程度

全国的に展開し、1～2年毎に行うことが望ましいとした割合が高かった。

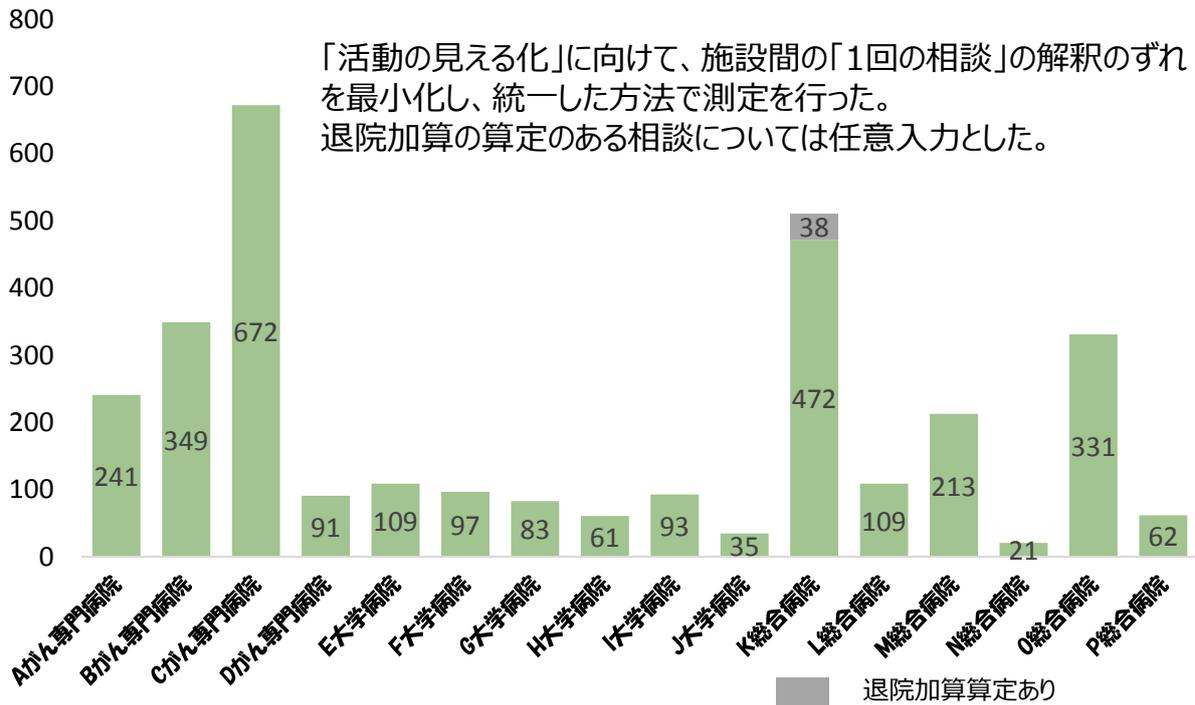
# 「相談件数カウント調査」パイロット調査結果 (1)

## 総相談件数

連続稼働日20日間 n=3077

→ 比較可能な件数の測定

相談件数 (件)



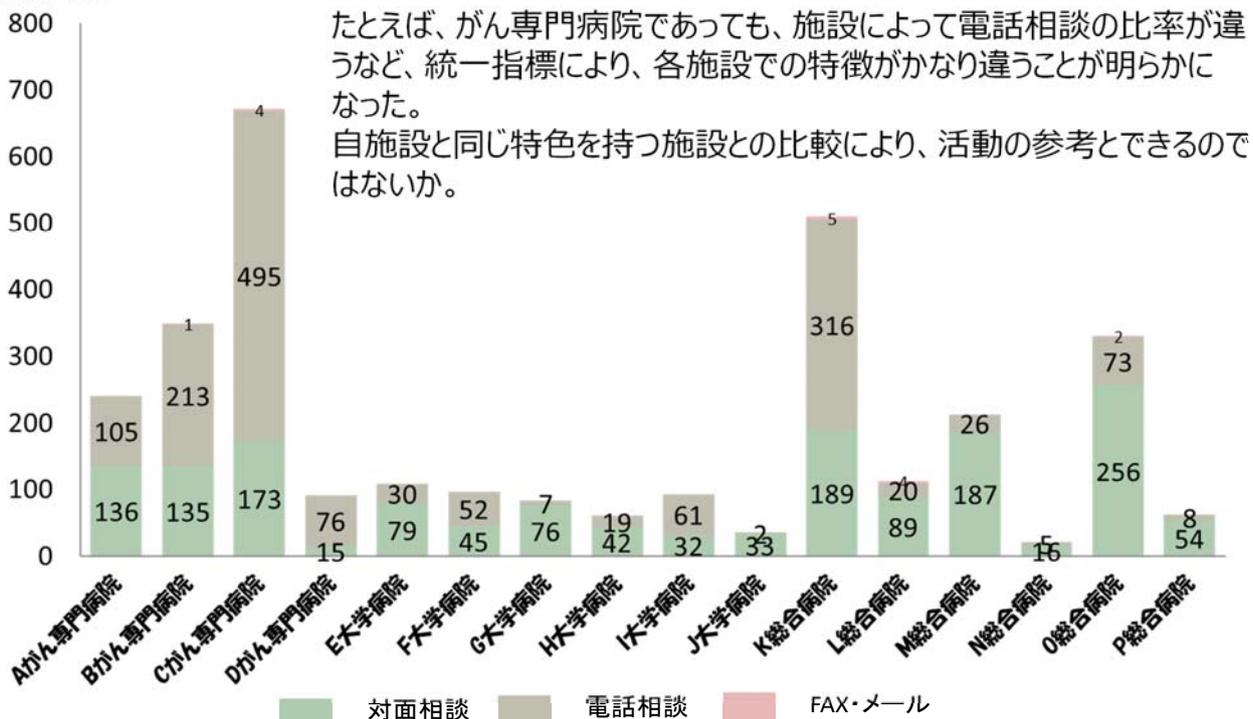
# 「相談件数カウント調査」パイロット調査結果 (2)

## 総相談件数

連続稼働日20日間 n=3077

対面相談/電話相談の件数 → 他施設との特徴比較

相談件数 (件)



# がん相談支援センター指標骨子

## ＜目標の整理と対応する指標について＞

アウトカム			プロセス		測定指標		構造	施策
患者・家族・市民			がん相談支援センター		測定関連指標	調査関連	体制	整備指針の内容
最終目標	準最終目標	必要な条件	必要な条件・状態	実施状況の例示				
困っている患者・家族が減る	頼りにできる人・相談の場がある	相談の場があると感じる人が増える  相談支援センターの役割を知っている人が増える  患者が孤立しない	その人にとってアクセスしやすい相談場所・相談の入り口がある  多様な相談先がある  複数の相談場所がある  情報や助けを求めている人に気づく人が増える	<ul style="list-style-type: none"> <li>センターの窓口をわかりやすく提示した</li> <li>センター外で出張がん相談を行った</li> <li>ヒアポートの場をつつた...</li> <li>案内を個別に配布している</li> </ul>	院内・院外での相談対応件数	【住民調査】 【患者体験調査】「相談の場がある」の回答割合	相談ブース数 プライバシーの保てる部屋数 電話回線数 直通電話の有無	必ず「がん相談支援センター」と表記する  相談支援センターについて積極的に周知
					担当医から紹介された相談件数	【医療者調査】相談支援センター認知度、有用度	(拠点病院であることの広報)	④主治医等から、がん患者及びその家族に対し、周知が図られる体制を整備する

〇〇県 がん相談支援センター  
PDCA実施状況チェックリスト  
(例) 資料4-3参照

## がん相談支援センターの活動実施状況チェックリストおよびその他の取り組み状況アンケート結果

実施時期：2016年2月～4月  
回収：43/47都道府県

N=47

チェックリスト設定・実績把握の状況	件数	チェックリスト以外の取り組み状況	件数
設定あり 実績把握の実施あり	14	①あり ②なし	7 7
設定あり 実績把握は未実施	5	①あり ②なし	0 5
まだ決まっていない ・検討中	24	①あり ②なし ③未回答	11 12 1
未回答	4	-	-
合計	47		47



# 組織間での支援の大切さ

## ■当院のがんセンター・地域医療連携センターのつながり

- 災害時に各センター代表の話し合いの場がすぐ設けられた。
- 朝の15分という短い時間での話し合いだったが、それぞれの立場からの助言がタイムリーな行動につながった。

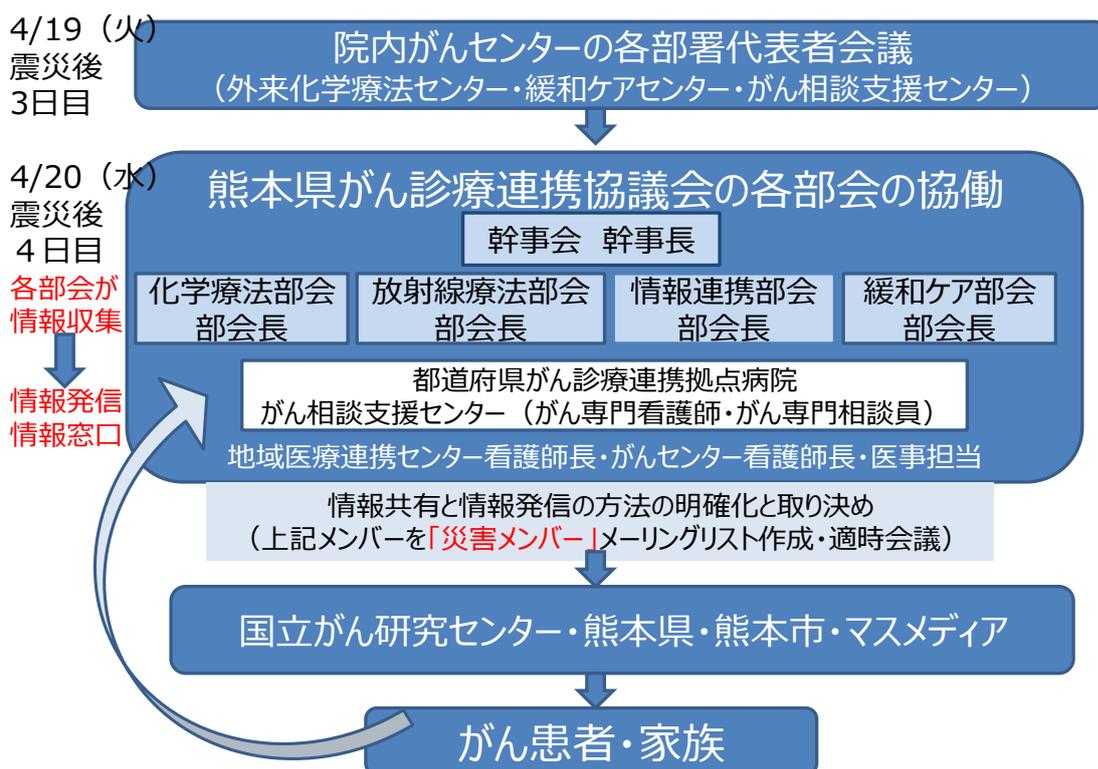
## ■国立がん研究センターからの支援

- 一目瞭然の情報シート作成。
- 近隣県の情報収集、発信。
- 当院からの情報を随時アップ。
- 患者会への情報の拡散。
- 困ったときにいつでも相談してよいという体制。



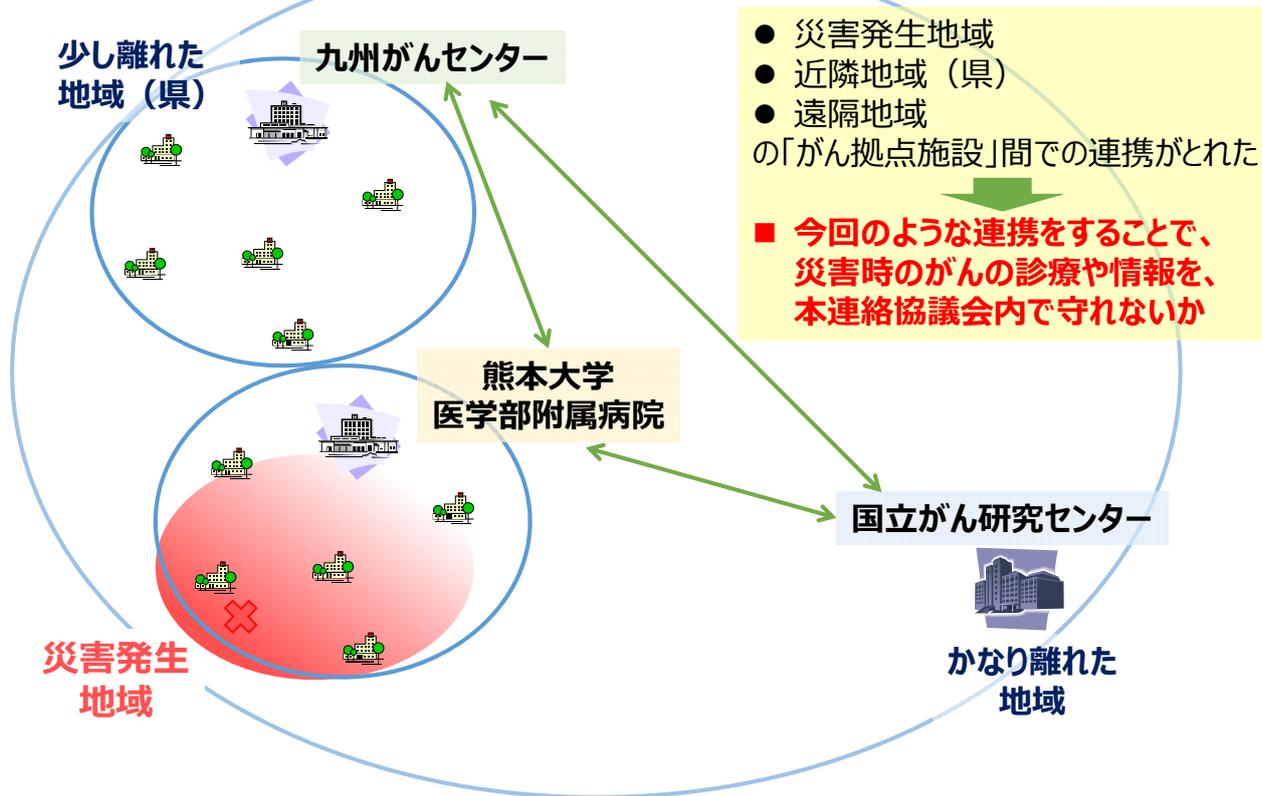
がん診療連携拠点病院連絡協議会-情報提供・相談支援部会報告「熊本大学医学部附属病院 安達様 資料」より

# 組織間での支援の大切さ



がん診療連携拠点病院連絡協議会-情報提供・相談支援部会報告資料より

# 今回の災害時の主な情報共有と連携



## 災害時のがん関連情報の支援について

### ■ 第7回情報提供・相談支援部会にて出された意見

「震災の時には何が起きるのかわからない。中央からのきちんとした指示があると非常に助かる」  
 「首都圏直下型地震で、国立がん研究センターおよび周辺地域の施設・サーバーダウン時にはどうするのか？」

■ 首都圏以外での災害時	■ 首都圏での災害時 (検討中)	■ 各施設での対応準備
<b>1. 情報支援の指示系統</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会議長より</li> </ul> <b>2. 情報の収集</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報収集用フォーマット (共有できるようにする)</li> </ul> <b>3. 情報共有</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全国版の連絡用として Kyoten-CISCメーリングリスト (がん相談支援センター実務担当者用)</li> </ul>	<b>1. 情報支援の指示系統</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会議長より</li> </ul> <b>2. 情報の収集</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報収集用フォーマット (共有できるようにする)</li> </ul> <b>3. 情報共有</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全国版の連絡用として Kyoten-CISCメーリングリスト (がん相談支援センター実務担当者用)</li> </ul> <b>4. データ保管/別サーバー確保</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 物理的に離れた地域1,2箇所に確保？</li> </ul>	<b>1. 直通の電話番号の整備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 直通電話が、がん相談支援センターにある                             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ がん診療連携拠点病院 427施設中 225件 (52.7%)</li> <li>➢ そのうち都道府県拠点 49 施設中 41件 (83.7%)</li> </ul> </li> </ul> <b>2. 情報収集・共有の過程のシミュレーション</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● フォーマットの共有Tel, FAX, email別に必要)</li> <li>● 院内受け入れ状況の把握ルート、病院長への確認ルートの確認</li> </ul>

# 情報提供・相談支援部会WGの設置

- これまで行ってきたがん相談支援センターの活動および評価、災害時のがん相談支援センターの対応、第3期がん対策推進基本計画に向けて、部会としての提案を行うためのワーキンググループを発足する。
- 7月～9月の間に2～3回程度のワーキンググループを実施し、**部会としての意見をまとめ**、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会から提案を行う。
- 部会委員より自薦・他薦により候補者を募り、以下のメンバーに決定しました。

## 【委員長】

奈良県 奈良県立医科大学附属病院 長谷川 正俊様 (MD)

## 【委員】

北海道	北海道がんセンター	木川 幸一様 (SW)
岩手県	岩手医科大学附属病院	青木 慎也様 (SW)
東京都	がん研究会有明病院	花出 正美様 (NS)
神奈川県	神奈川県立がんセンター	清水 奈緒美様 (NS)
大阪府	大阪府立成人病センター	藤井 照代様 (NS)
富山県	富山県立中央病院	加治 正英様 (MD)
島根県	島根大学医学部附属病院	楨原 貴子様 (SW)
岡山県	岡山大学病院	石橋 京子様 (SW)
福岡県	九州がんセンター	古川 正幸様 (MD)

平成27年度

## 「地域相談支援フォーラム in 近畿」開催報告

大阪府がん診療連携協議会 相談支援センター部会長  
(大阪府立成人病センター副院長・相談支援センター長)  
東山 聖彦



## テーマ「がん患者団体との連携と協働」

地域や各施設における相談支援センターの立ち位置の違い等を越え、「連携」と「協働」というテーマで、近畿各府県から集ったがん相談に携わる仲間たちと共に考えてみたい。

- 対象： 近畿6府県がん拠点病院（国指定・府・県指定）がん専門相談員および医療関係者
  - 参加者数：166名（相談員 135名、実行委員、国がんなど関係者 31名）（大阪67、兵庫16、京都16、滋賀7、和歌山13、奈良11 近畿外5、計135）
- 平成28年1月23日(土) 10 - 16:30/大阪TKPガーデンシティ大阪梅田

### 基調講演

- ・がん診療連携協議会長の立場から
- ・患者支援団体COML理事長の立場から

### パネルディスカッション

「がん患者団体が、がん相談支援センターに期待する連携と協働とは？」

### 午後 6府県からの報告

『テーマ：地域におけるがん患者団体等との連携と協働の現状について』

### グループワーク

『府・県内のがん相談支援センターががん患者団体と「連携」「協働」する際にすべきことは何か？』



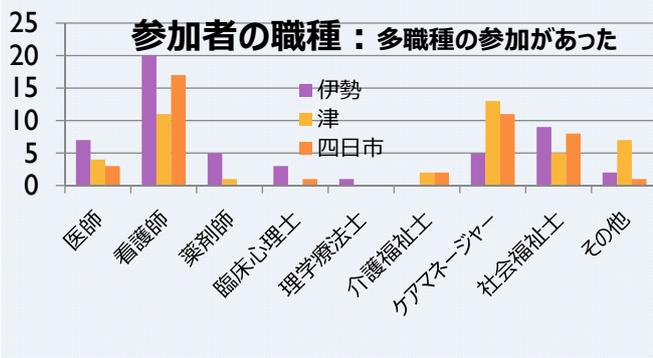
平成27年度  
**がん相談支援センターを地域の支援の輪につなげる新企画** in 三重  
**みのりカフェ@三重 開催報告**  
 三重県がん診療連携協議会 がん相談支援部会  
 三重大学医学部附属病院 がん相談支援センター 鈴木志保子

- ▶ **目的**： がん相談支援センターの周知  
 がん患者・家族への支援体制の輪の構築
- ▶ **対象者**： がん患者と家族のケアに関わる人  
 (医療・介護・福祉・行政の関係者等)
- ▶ **内容**：

**第1部 がん相談支援センターに関する紹介**

がん患者・家族に関わるスタッフへ情報提供することで、  
 患者・家族ががん相談支援センターを活用できる**第2部**  
**テーマに添った話し合い ワールドカフェ)**

**テーマ「支援の輪」**： 施設間、職種間の垣根を超え、  
 気軽に意見を出し合い、話し合いができる場を提供する



**みのりの収穫 (抜粋)**

- 病院と在宅スタッフが**同じ方向を向いて**サポートすることが必要
- ...
- 各専門職のできることは限られている。だから**支援の輪を広げることが重要**

▶ 三重県がん相談支援部会の団結力が強まった。  
 ⇒ **みのりカフェの継続を検討していく**

# 地域相談支援フォーラム・地域につなげる新企画 平成29年度企画募集

がん情報サービス ganjoho.jp 医療関係者向けサイト

診療支援 研修・セミナー 多地点テレビカンファ **がん相談支援** 予防・検診 拠点病院連絡協議会

HOME > がん相談支援 > 地域相談支援フォーラム > 平成29年度 > 地域相談支援フォーラムならびに「がん相談支援センターを地域の支援の輪につなげる新企画」共催団体募集について

平成29年度  
**地域相談支援フォーラムならびに「がん相談支援センターを地域の支援の輪につなげる新企画」共催団体募集について**

更新日: 2016年06月06日【更新履歴】

【募集するプログラム】  
 【企画情報】

【共催団体募集】  
 国立がん研究センターがん対策情報センターでは、既に各都道府県において周知されている新たな整備指針(平成26年1月10日付健康0110第7号)の通知内容を踏まえ、より地域のニーズに合致し、また体系的・継続的な研修の実施やより効果的な広報・周知活動を支援するため、「地域相談支援フォーラムならびに「がん相談支援センターを地域の支援の輪につなげる新企画」を公開します。  
 下記(1) (2) あわせて2件程度を採用予定です。

【募集するプログラム】  
 1) 「地域相談支援フォーラム」の相談員研修  
 【応募の条件】

- ・「都道府県がん診療連携協議会」あるいはその傘下の「相談支援専門部会」(あるいはこれに該当する担当者連絡会議等)を応募主体とし、部会長名義で応募すること。
- ・プログラムの開催時期: 2017年4月～2018年2月
- ・企画の選考にあたっては書類審査の上、ヒアリングを行う。
- ・対象者: 県境を超えたネットワーク構築をひとつの担いでいるため、開催県以外に隣接3都道府県以上の「がん専門」相談員を対象とすること。ただし、医療施設数が極めて多数の地域や、

**企画の実施時期：**

2017年4月1日～  
 2018年2月28日

**応募期限：**

2016年8月31日(水)正午  
 (必着)

**選考ヒアリング：**

2016年9月16日(金)予定

**採否の連絡(予定)：**

2016年9月末日ごろ

[http://ganjoho.jp/med\\_pro/consultation/forum/h29/h29.html](http://ganjoho.jp/med_pro/consultation/forum/h29/h29.html)